

男子100m決勝 ゴールする佐々木(中央)。右は優勝したエストニア選手



佐々木「銅」 陸上男子100

東京デフリンピック

東京デフリンピック第4日は18日、駒沢陸上競技場などで行われ、陸上男子100mで2連覇を狙った佐々木琢磨(仙台大職)は10秒63で銅メダルを獲得した。坂田翔

悟(セレスポ)は8位。十種競技の岡部祐介(ライフネット生命)は7位。(19面に関連記事)

柔道は2戦先勝方式の団体戦が行われ、日本は男子が銅メダル、女子は3位決定戦で敗れた。卓球混合ダブルスは川口功人(トヨタ自動車) 山田萌心(島根

明誠高)組が準々決勝で敗れ、亀沢史憲(サムティ、東北福祉大出) 亀沢理穂(住友電設) 組は2回戦敗退。自転車ロードの男子ポイントレースは藤本六三志(東京瀧器) が7位だった。団体球技1次リーグの日本は、サッカー男子がイタリアと0-0で引き分けてA組を2勝1分けて1位通過。バスケットボール女子はウクライナに80-62で勝った。

「また挑戦したい気持ちある」

大会2連覇の夢は果たせなかった。男子100m決勝の佐々木は惜しくも3位。ゴール後、空を見上げて涙を浮かべた。「100mでメダルを取れたのは良かった。でも、1位を取れたなどというモヤモヤもある」と複雑な表情を浮かべた。

号砲代わりの「スタートランプ」に反応良く飛び出した。途中でトップを狙える位置にいたが、「加速がうまくできなかった」と2位に付けていたゴール直前で、スウェーデンの選手にかわされてしまった。「ちよつと遅れてしまった。力不足」と反省する。

ただ、1位の選手はデフリンピック新記録、

2位も同タイ記録とハイレベルのレースを考えば、決して悲観する内容ではなかった。本人も「レベルが上がっているのはうれしい。また競技に挑戦したい気持ちはある」と前を向く。

自国開催でスタンドからは手を使って応援する「ハンドエール」が多く送られた。「競技に集中して見ることができなかった。次は楽しんで周囲の様子を見られればと思う。金メダルを取りたい」と佐々木。残る200mと400mリレーでの世界一へ気持ちを切り替えた。

(中村紳哉)